

## 勿凝学問 83

予告編：年金報道の見分け方再び

2007年6月13日  
慶應義塾大学商学部  
教授 権丈善一

このシリーズ、初の予告編の執筆である。

いつ新聞紙面の一面に持ってくるか、しかも『朝日新聞』がまず持ってくるだろうと思っていた記事を今朝目にする。

[「年金電話相談 24時間で着信47万件 うち対応1万7000件」](#)

一面に持ってくるということは、よほど重要な話なのであろうから、国民は、すべからずこの記事を熟読することをすすめたい。そして少しの時間的余裕のある方には、「勿凝学問8 [年金報道の見分け方](#)」も参照されたい。2004年当時書いた雑文なのであるが、当時と同じ新聞が同じバイアスを持っているのが興味深い——興味深い理由は、ニュースは事柄の性質というよりも社の政治スタンスを映して作られるという仮説を想起させる学術的理由からである（なお、上で紹介した『朝日新聞』朝刊の記事で参照先とされている〈時時刻刻〉は、整理しなければならない事実を淡々と整理する抑えの効いた記事となっている）。

ところで、こうした年金電話相談への殺到はなぜ起こったのか。浜松では社会保険庁職員が殴られ、殴った男性が逮捕されたのであるが、そうしたことがなぜ起こるのか。

原因は報道のあり方にあるのではなかろうかというのが当方の仮説である。

電車の脱線事故の時もそうであった。報道の仕方次第、語尾の選び方次第で、乗客を駅員に殴りかからせることができるくらいの力をメディアは軽く持っているのだから、くれぐれも慎重にならなければならないんだと、言い続けてきた。

メディアの報道は、国民のビヘイビアを変える力を持っている。彼らメディアは、意図的にやっているのか、それとも無意識のうちにやっているのか——なかなか判断しづらいところであるが、今回の年金問題を長引かせるのであれば、その手段は、国民を社会保険事務所に殺到させる、社会保険事務所に人間爆弾を投下させる、そうして大混乱を起こさせればよしという戦略を、わたくしならば立てる。なお、メディアの報道は、国民のビヘ

イピアを変える力を持っている——しかしそれが国民の幸せに必ずしもつながるわけではなく、時に国民を不幸せにする——ということについては、「勿凝学問 48 [なぜ医師不足が生じたのか?](#)」を参照されたい。

今回の件——問題の量がどの程度あるのかは実は誰にも分かっていないのであるが、解決しなければならない問題であることには議論の余地はなく、しかも解決のベクトルの方向にも議論の余地はないという特徴をもつ話しである。今後も、ベクトルのスカラー強化の必要性は高まるおそれはあるが、問題解決のベクトルの方向ははじめから定まっている。ならば、解決の方向性を評価規準として、与野党が提案する解決策を評価することは、もう随分と前からできるはずである。しかしながらどのメディアも、スカラーを規定する問題の量の話がお好きなようで、このために、目下必要でない人まで国民は不安を感じ、混乱は増幅している。こういうことは、わたくしの趣味にあまり合わない話しである。

今日はこれから、講義である。講義では、今朝の毎日新聞にあった読者の声のひとつを紹介するつもりでいる。

みんなの広場:年金生活の人々を思うと、つらい

2007/06/13, 毎日新聞 朝刊 6面

先日、みどり色の封筒が社会保険庁から届いた。中には58歳に通知する年金加入記録が入っていた。そこには結婚して専業主婦になってからの国民年金だけが載っていて、独身の10年間働いた厚生年金が漏れていた。あわてて、必要事項を記入して返送した。

この知らせで私も、今マスコミで騒がれている5000万件のうちの1件に知らないうちに入り、年金が少なく支給されることになっていたのにととても驚き、ショックだった。私はまだ支給年齢ではないので、取り戻せるが、現在支給対象の3000万人、年金で生計をたてている人たちのことを思うと胸が痛む。

「政治屋は次の選挙のことを考え、政治家は次の時代のことを考える」という言葉を読んだことがある。今国会、特に野党は私たちを救ってくれる気があるのだろうか?と考える。社会保険庁の失態をできるだけ早く解決し、私たちに安心と納得を事実の上で示してほしい。テレビに映る強行採決のパフォーマンスは見ていて悲しい。国民のためを思うなら全議員で一日も早く問題解決に努力すべきだ。

野党はそろそろ問題の実像から得られる以上の獲物をねらうことを慎まないと、それなりのリスクを負うことになるのではなかろうか(「勿凝学問 81 [年金教育をタダでやってくれている有り難きメディアたち——および、「政争の具と政治リスク」再考](#)」参照)。だいたいもって、彼ら野党がこの問題の実像から得られる以上の獲物をねらおうとしなかったら、[勿凝学問 81 以降の文章](#)そのものが、生まれていない。わたくしが野党の戦略を批判する文章を書くというリスクを彼らはとって、野党は大きな獲物をねらおうとしているのであろう——な、はずはなく、わたくしの文章など眼中になく、もし知っていても、世の中の人

はだれも読みはしないだろうと思われているだけなんだけど（笑）。いやはや。

それと、産経新聞のコメントや最近の文章を読まれた与党支持者からはお礼の言葉、野党支持者からは野党に少し厳しくないかとの嘆きの連絡を頂いているけど、お礼も嘆きも不要です。明日あたりに出るはずの本では、医療、年金、社会保障全般に関する与党の政策スタンスを厳しく批判してますので（笑）。

さてさて、今日は午後から講義、明日も講義、明後日は日本病院会でのシンポジウム「防ごう！！ 病院医療の崩壊」に出席。しばらく時間がないかもしれないので、本日の「年金報道の見分け方再考」は、予告編のみで失敬。おっと、講義に遅刻しそうだ――。

・・・

学生の携帯にメールを出す。

----- Original Message -----

Subject: 頼む

----

講義にちょっと遅刻しそうなので、勿凝学問 83 と今日アップした新聞を印刷してきてくれるように黒板に書いて、待っておいてくれ。

----- Original Message Ends -----

即座に返信が届く――便利な時代？

----- Original Message -----

Subject: Re:頼む

----

書きました、大丈夫です。

----- Original Message Ends -----